JSCE NEWS
1998. Vol.83 November 11

岩手県内陸北部地震速報

NEWS

9月3日午後4時58分，岩手山南西部の雫石(しずくいし)町付近（北緯39度48分，東経140度55分）を震源とする地震が発生した．この地震の規模はマグニチュード6.1，震源の深さは9.6kmであり，東西方向に圧縮軸を持つ逆断層型であった．震度は，雫石町長山で震度6弱，盛岡市震度3，宮古震度2，仙台震度1などである．雫石町内の町道西根線沿いの葛根田川西岸では，水田に南北方向に約800mの長さで断層が現れた．

地震による主な被害は，県道雫石東八幡平線ほか2路線が落石と斜面崩壊により22か所で寸断され，通行止めとなった．雫石町の国民休暇村では，従業員や宿泊中の中学生数名が落下物でけがをして病院へ搬送された．岩手山中腹にある滝ノ上温泉では唯一の道路である県道西山生保内(おぼない)線が落石などにより通行止めとなり，宿泊客，従業員，工事関係者など約100名が孤立したため，県では自衛隊等に出動要請をしてヘリコプターで救出した．県道西山生保内線は被害が特に大きく，全通は来春以降になる見通しである．

この地震による被害額は9月21日現在で約81億円であり，岩手県では地震の被害としては1978年の宮城県沖地震を上回った．

当地では本年3月より岩手山の火山性地震が顕著となり，噴火が予想されるところから，県では5月22日に岩手山火山活動対策検討会を発足させ，地元4町村では7月1日から岩手山の登山を禁止している．現在のところ差し迫った噴火の兆候はないが，今回の地震は岩手山の火山活動との関係を疑わせるに十分なタイミングであった．しかし，この地震は火山性の地震でないことが確認されている．

岩手山周辺にはペンション，スキー場などの観光施設が多く，地元経済は観光に大きく依存しているために，3月以降の岩手山の火山活動活発化により宿泊客のキャンセルが相次ぎ，苦境に立たされたところでの地震で，今後の地元への影響が懸念されている．

（岩手県立大学教授　総合政策学部総合政策学科
元田良孝）

「第3回海の日記念なぎさ観察会」を開催

NEWS

7月20日の海の日に神奈川県葉山町一色海岸において，海洋開発委員会主催のなぎさ観察会が開催された．この観察会は，祝日として海の日が制定された1996年から始まり，今年で3回目を迎え，参加者は葉山町在住者を含めて60名を越えた．

午前中，海岸近くの施設で，参加者に午後からの現地観察会を理解してもらうための講義が行われた．宇多高明氏（建設省）からは，湘南・葉山海岸の特徴について，池田等氏（葉山町立しおさい博物館）からは，海岸生物についての解説が行われた．昼食後，現地観察会に出発した．

観察会では，宇多，池田の両氏のほかに加藤一正氏（運輸省）と萩原清司氏（鹿島建設(株)）が加わり，一色海岸海水浴場から御用邸前の小磯，下山川河口を渡り，折返し地点の葉山公園までの1.5kmの海岸で，海岸のおもしろさとそこに生活する生物について，実物にふれながら解説が行われた．帰路では，昭和天皇の海洋生物研究資料などが展示されている葉山町立しおさい博物館を池田氏の案内で見学し，再び出発点に戻り，2時間半の全行程が無事終了した．

このような海岸工学と生物の生息とを結びつけた観察会は，わが国では初めての試みであり，参加者から会の継続した開催を求める声が多く聞かれた．

（鹿島建設(株)　技術研究所葉山水産研究室
柵瀬信夫）

四国支部，小学生による魚類生息環境調査を実施

NEWS

土木学会四国支部では8月25日，流域の生物多様性を支える用水路網の環境とその役割を見直そうと「身近な水環境の生物と私たちの生活の関わりを考える」と題して，地元の小学生による魚類相ならびに水質調査を行った．

今回の調査の対象となった徳島市国府町・以西用水路は，1762年にはすでに存在していたという史料があり，取水源は鮎喰川の伏流水，下流では吉野川につながることから，用水路網では長年にわたって上流からの生物種の攪乱はなく，本川とのビオトープネットワークを理解するには適した水環境となっている．当日は，徳島県博物館から佐藤陽一研究員を講師に招き，徳島県・市教育委員会の後援を得て，地元国府小学校等から児童35名，教師5名のほかに，一般4名を含む44名の参加があった．魚類の生息調査を実際に体験し，環境からみた用水路の現況について解説を聞き，意見交換を行っ

た参加者たちからは好評を得た．四国支部では，土木の日の行事として11月14日に，徳島大学で教育関係者の参加を得て環境教育フォーラムを開催し，その中で今回の成果についても報告を行う予定である．

（徳島大学大学院助教授　工学研究科エコシステム工学専攻　上月康則）

産・官・学が参加し，第3回技術交流会を開催

N E W S

土木学会四国支部では8月28日，徳島県建設センター（徳島市）で産・官・学を交えた第一線の土木技術者による第3回技術交流会を開催した．

当日は76名が参加し，「明石海峡大橋開通後の交通量の動向」，および「徳島橋梁技術者の会とその活動」と題する講演が行われた．

最初に澳津康賀氏（徳島県庁）から，明石海峡大橋の開通に伴い，①従来の空路，海上ルートの輸送が，橋を利用した陸上輸送にどのように移行しているのか，②徳島県内の幹線道路の交通量にどのような影響がみられるのか等の架橋効果について，最近実施した交通量調査結果の報告をまじえて説明が行われた．

次に，徳島橋梁技術者の会会員である加賀晃次氏（エスシー企画(株)）から，橋梁技術者の会の発足経緯（1992年発足），ならびに最近の活動として，「吉野川と人と橋（仮題）」の発行，および「橋梁の補修・補強に関する報告書」の発行について，説明があった．

講演終了後，会場を移して講演者を囲み，最近の技術情報，社会基盤整備のあり方等について，真剣な中にも和気あいあいとした雰囲気のなか議論が弾み，有意義な集まりとなった．

（徳島県土木部　建設管理室技術室長補佐　里見恒利）

第1回施工技術研究会「浚渫土のリサイクル技術」を開催

N E W S

運輸省第三港湾建設局神戸機械整備事務所が主催する「第1回施工技術研究会」が，9月3日に神戸地方合同庁舎で開催された．

この研究会は，主に港湾建設に携わる技術者を対象に最近の施工技術および技術開発の成果を紹介し，技術の向上と普及に努めることを目標としている．

第1回のテーマとして，運輸省の「港湾に係る民間技術の評価制度」の平成9年度の特定課題に認定された「浚渫土のリサイクル技術」が選ばれた．日本全体があらゆるものを再利用する循環型社会になるよう取組んでおり，公共事業に携わるものにとっても，材料の再利用やリサイクル材を有効に活用することは循環型社会に向けての1つの試みである．席上，以下の9技術について，開発を行った各社の担当者から説明が行われた．

①浚渫土の人工地盤材料への適用化技術，②浚渫軟泥土のプレミックス工法，③フィーダ式二軸混練固化処理船，④PACLAY，⑤マッドサンド工法，⑥プラグマジック－管中混合固化処理工法－，⑦DEI－KONシステム，⑧クエム工法－環境改善型埋立工法－，⑨連続式浚渫泥土処理工法

各技術の概略は，浚渫土から異物を除去して固化材を添加混練し再利用するというもので，その過程で各社のさまざまなアイディアが用いられている．

時機を得たテーマであり，また，評価制度で認定された技術を公の場で紹介する初めての機会ということもあって，当日は多数の出席者を迎え盛大に開催することができた．また，アンケートでは研究会で得られた知識を今後の業務に生かしたいとの意見を多数いただいた．

今後も技術的に関心の高いテーマを選定し，施工技術の向上をめざして研究会を開催していきたいと考えている．

（運輸省第三港湾建設局　神戸機械整備事務所長　小松　明）

「見て・聞いて・土木の動き」登場！

ニュース欄（JSCE NEWS）をより魅力あるものとするために，1999年1月号より内容を刷新いたします．会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております．

1．企画の名称
- 「見て・聞いて・土木の動き」

2．企画のコンセプト
- 土木の動き（例：プロジェクト報告，委員会関連報告，会議報告，災害・事故，市民参加の見学会，かつての話題のフォロー，その他）を伝える話題を簡潔に紹介します．

3．企画の構成
- 掲載スペースは，2～3ページとします．
- 報文欄と情報欄の二本立てとします．

3-1.報文欄
- 投稿記事については，委員会で選考したものを掲載します．学会誌に掲載できなかったものは，土木学会誌ホームページで公開します．
- 土木の動きを伝えるものであれば，原則としてどのような話題でも歓迎します．ただし，本欄をより魅力あるものとするため，特に，速報的なニュース性のある話題，個人あるいは各地域特有の目撃談・耳寄りな情報，および会員にぜひ知らせたい有用な話題等の投稿を歓迎します．
- 従来，ニュース欄に掲載していました会員の人事・受賞・表彰は，原則として「見て・聞いて・土木の動き」欄には掲載しません．別枠で設ける「会員消息」欄で，下記のように紹介します．

例：○○○○会員　○○大学学長に就任（1998年4月）
　　○○○○会員　○○賞受賞（1998年2月）

3-2.情報欄
- 委員会活動状況，支部活動状況の2欄を設置します．
- 委員会活動状況，支部活動状況については，報文欄での掲載のほかに，新しい紹介方法として，その詳細が，委員会，支部等のホームページに掲載されていることの案内を紹介します．

例：○○シンポジウム開催される　　○○委員会
　　詳細：abc@def.or.jp

4．投稿要領
- 「見て・聞いて・土木の動き」の報文欄の記事と情報欄の情報，および「会員消息」欄の情報（人事・受賞・表彰・褒章）の投稿を歓迎します．
- 報文欄は400～800文字程度（写真1枚程度含む），情報欄は20～50文字程度（ホームページのURLを必ず付記），「会員消息」欄は20～30文字程度とします．
- 原稿は，電子情報で土木学会に送付して下さい．（E-mail:takeda@civil.or.jp）
- 文章は，テキストファイル（.txt）で送付して下さい．
- 写真は，JPEGファイル（.jpg）かGIFファイル（.gif）で送付して下さい．
- N月号掲載の記事，情報の締切は，N－2月の20日（例：1月号（12月25日発行）掲載は，11月20日）です．
- 軽微な修正は，委員会の責任で行います．